

特に総務部長、おたくの管理、1回現地を見てください。どういうふうな貸し方してるのかで
すね。今、コミュニティメディアにどういうふうな貸し方してるのか、契約じゃなくて場所、ぼ
つんぼつんと何かプレハブみたいな事務所みたいな建ってますけど、私は、もう少し有効利用、
特に学校が、学校が駐車場がないということをわかっておりながら、何でああいう貸し方をする
のかなと、まあ、あいてる土地は貸してもいいでしょうけど、貸すなら貸すでやはりまとめて、
一画にまとめてプレハブなり建てさせる。今、建築会社が道路拡幅のために1カ所借りておりま
すが、それは工事が終われば撤去すると思いますが、もう一回精査してみてください。そして今、
個人に貸しております土地も、契約の中に多分うたわれていると思います。市が使用目的が発生
したときには立ち退くということが条文の中でうたわれとると思いますので、やはりそれを明確
に、学校の駐車場として活用するならば活用するということで、用途を目的にすれば、私はその
契約の条文にひっかかると思いますので検討してみてください。ちょっと消化不良でしたけど、
これで終わらせていただきます。

○議長（作元 義文君） 以上で、小川廣康君の質問は終わりました。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会は11時から行います。

午前10時51分休憩

.....

午前11時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） おはようございます。

市民の声を生かす、市民の誠意をモットーに頑張っております10番議員の小宮教義でござい
ます。私の持ち時間は50分でございますのでよろしく願いをいたします。

今月の9月2日に菅政権から野田政権へ交代をいたしました。自民党から民主党へ政権が移っ
たわけですが、移ってわずかまだ3年目、その間に3人も総理がかわっております。本来であれ
ば国民に、解散をして信を問うべきでございしますが、東日本大震災、この大きい課題があります。
やむを得ないんじゃないかと思っております。早くこの第3次補正予算を通していただいて、復
旧復興に全力投球でこの内閣をお願いをしたいと思います。

この野田総理、民主党の代表選のときにこのように発言をしております。「ドジョウのように
泥臭く、国民のために汗をかきたい」と言っておられます。私はどのような汗をかくのか、非常
に楽しみにしておりますが、市長はどうでございましょうか。3年半前に選挙カーで、「私は、
市民のために頑張ります」と、「私は、市民とともに苦しみを分かち合います」そう言って大粒

の汗をかいて声を大にして全島を走っておられました。どうも汗はそのときに最初で最後ではなかったか、最初は勢いはいいが、あとは打ち切れ、まあ、竜頭蛇尾といえますか、市民は非常に愛想を尽かしておる状態でございます。

そしてさらに、この野田内閣、近所じゃございませんが、「ドジョウ内閣」と称しております。では、財部市政はどうか。泥の中に潜るナマズ市政ではないか、都合のいいときだけに表面に出て、そしてあとは潜る、まさにナマズのようにございますがいかがでありましょうか。

では、さきに通告しておりました1点について、市政一般質問をさせていただきます。今回はタイトルが1個だけでございます。

来年3月予定の市長選の出馬表明などについて、この地球の温暖化も非常に速いわけですが、まあこの市長の出馬表明、これもまた早い、任期を10カ月残しての出馬です。市民は驚愕しておりますよ。本来ですと任期満了の3カ月ぐらい前に、出馬表明をして、そしておのれの4年間の信を市民に問うと、これが常識的な現職の立場なんです。出馬表明をしたということは、今までに市民との公約も既に実行して、これからは選挙活動に力を注ぐということになるわけですが、今までの市民との公約の成果、これについてお尋ねをいたします。

成果については、私の前の小川議員が私と重複するところもたくさんございました。できるだけ短く、あとは一問一答でお願いをしたいと思います。

以上、市長の答弁を求めます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小宮議員の質問にお答えさせていただきます。

通告書のほうに当選時における市民に対する公約の実行とその成果について質問するというふうなことでございました。

小宮議員にも見られたことも一度ぐらいはあろうかと思いますが、私、選挙公約として、このリーフレットを実は、「よみがえり宣言」ということで出しておりました。この、これがきちんとした、まさしく公約の文面でございます。ちゃんと選挙管理委員会にも届けたシールもあるやつです。これ、あと何部かまだ家にあったものですからこれを持ってきましたが、これを、これは大きな柱が3つあります。「透明な政治にしましょう」ということと、「財政改革をなし遂げましょう」、そして、「地域の力を結集していきましょう」というふうなこの3つの柱で成り立ってます。それぞれの人たちが主人公のまちづくりをやっていかなければいけないというふうなことでございます。その中で、100%というか、まあ、この情報共有という部分、それから地域マネージャーで、地域のことを考えようという部分、それから財政改革ということで借金体質の改善を図りましょうということがございます。それから、市政の総点検というところでは、職員が公共施設の管理が自分らでやっっていこうじゃないかと、そして経費の縮減を図りましょうと

ということがございます。

さらに、安心できる地域づくりということで子育て支援、高齢者支援、それから医療福祉の充実ということをここでは挙げております。特に高齢者のほうではAEDの問題とか、見守りネットといいますか、独居老人対策等々がここで上がってきております。在宅介護支援システムをどうかつくれないかということもうたっております。

それから、農林水産業の振興ということで、多業種連携事業ということで多くの産業、業種が、さまざまな業種が一緒になって物事をつくり込んでいく多業種連携事業というのをを出しております。起業士、それから起業者の育成のための金融とか技術支援というものをしております。農林水産資源の活用アイデアを研究試作できる施設というものを設置していく必要があるんじゃないかということを書いております。

それから、島内、農林水産資源等を生かした企業の誘致を推進しますということです。

それから、人工林を天然林へ回帰させていきたいと思いますということ、それから観光の振興においては、国内客向けの体験型観光を提供できる会社というかそういうシステムをつくっていきましょと、ある意味インバウンドの部分に力を入れていきたいと思いますということもここで言っております。

それから、漁家、農家民泊等をこの観光では進めていきたいと思います。文化・スポーツの振興という部分については、青少年のスポーツ振興に努めます。それから、対馬に根差した文化振興を図りますということで、これが今話した項目です。それほど項目ございませんのでこれを挙げております。

この成果というお話がございました。実際、私どもの市がどういう状況であったかというのは、もう既に議員の皆さんは御存じのように、16年度末において641億円の借金がある、この返済ということでやはりみんながあえいでたということが大きな問題だというふうに考えて、借金体質の改善ということをこの公約の中で掲げたところでございます。

そういう中、この22年度末で521億円まで公債費の総額は下がったところです。さらに、今年度末で490億円程度に減るだろうというふうにも思ってます。この公債費をやはり落とさないと皆さん、市民の方々に回す金が生まれてこないというのが現実です。やはり、毎年の返す金が1億円でも減れば、仮に交付税措置算入されてる起債等を私どもは借りますので、よく、30%から80%とかいろんな枠は、差はありますけども、そういう起債を仮に60%ぐらいが交付税措置になった場合、1億円の金額が減れば4,000万の一般財源が生まれてくるという計算になります。そのような毎年の通常返していく返済額をどうかして圧縮しなければいけないということで、このあずかりました4カ年近くの間で100億円を超える縮減を図るつもりです。今年度末の予定でございますが、どうかして減らし、そして市民の方々が要望されるさまざまな

ことにこたえていく体制を整えていきたいということで、一生懸命取り組ませていただきましたし、そのことは市民の皆さんに迷惑をかけた部分も当然あるかと思えます。しかし、それをしないと、次の人たちにこの対馬を渡していけないというふうなことで、市民の皆様も私を当時選んでいただいたものというふうにご考えております。

先ほどの答弁で長くなってあれでしたので、もうこれで切り上げさせていただきます。あとは、自席から。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 質問に入る前に、私のモットーとする「市民の声を生かす」ということで、市民から寄せられた声を、まあ意見ですが、先に紹介をしたいと思えます。もしこれに対して、意見があればお願いをしたいと思えます。

2点ございましてまず第1点ですが、対馬市交流センターで東日本大震災のカラオケ大会で市長が参加し歌ってありましたが、そんな暇があれば、みんながどうして生活しようかと苦しんでいるのに市民のことを考えてはどうですかという1つあります。

それと2点目が、6月に、公務中にもかかわらず、公用車で市長の後援会幹部を乗せ、あいさつ回りをしているようですが、公務中でもあり公用車をそんなふうにご使用してもよいのでしょうかというふうな一般の意見が寄せておられます。

では、質問をさせていただきたいと思えますが、先ほど冒頭申しましたように、約10カ月前に立候補表明されました。そうすると公務と選挙活動という形になるわけですが、そうすると公のほうに、市政運営のほうに支障を来すことがあるのではないかとと思えますがその辺をひとつ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） カラオケ、チャリティーカラオケに参加する暇があったらという市民の声があったということでございまして、私自身きちんと参加費の2,000円を払ってあれには参加をさせていただいたところでございまして。

それと、もう1点の公用車を使って後援者をどうのこうのというお話がございました。そういうことは全くございません。そのような間違った報道がどうもされているようにございまして、1回も後援者を乗せてしたこともありませんし、それは何かの見間違いだと思えます。私自身、後援者を乗せて島内を当然回ったこともございまして。ただしそれは、黒い車でございましたけれども公用車でもなく、個人の車でございまして。その点、見られた方はお間違いのないように、RV車だったと、たしか思えます、黒の。RV車の黒のRV車は公用車にはありません。

早い時期の出馬表明になったがそれから選挙までの間、市政運営に支障を来すのではないかとというふうな話がありました。決してそのようなことはないというふうにご思っておりますし、10カ月前であろうが、それが3カ月前であろうが、それは時間の長さは確かにございまして

けども、違いはありましようけど、3カ月前の人と変わらぬような考え方で、そこの区別はきちんとしながら市政の運営にはしっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 選挙活動はこれは個人的なものですから、そのところを取り間違いないように肝に銘じていただきたいと思います。

それと、先ほどの公用車の話ですが、公用車を使わなかったとしても、公務中に、その日が公務中にこのような行為をされたんじゃないですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私における公務の時間というのは、ある意味365日でございますので勤務時間というのはありません。年休もございません。出勤時間もありません。そういう勤務体系の中で、私は就業をしておることを理解ください。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） では、次の点ですが、この事業の成果、約3年半の事業の成果ですが、何と云っても、この財部市政の事業の成果の第一は、やっぱり2年前の定額給付金の差し押さえ、これはもうテレビで全国で流れてました。そして、時の総務大臣も発言しております。そして、大阪府知事の橋下さんも愚策じゃないかということによっておりますが、まあこの1点だけが最大の成果だと私は思ってますが、これについてどのような評価を下しておりますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 差し押さえの件でございますが、定額給付金にかかわらず、私どもの市が抱えている滞納額というものに、きちんと真正面から取り組むということで、差し押さえを既に取り組みおったところでございますし、定額給付金の時期とそれは重なってきたというふうに御理解いただきたいと思います。

ちなみに、大阪府知事の橋下さんがテレビで愚策だというふうな表現をされましたが、大阪府の税務職員からは私どもにメールが入りました、最高の策だと。自分たちの知事はそれに踏み込めないというふうな応援メールが大阪府の職員、そして全国の自治体職員からも入ってきたところでございます。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） メールは初めて聞きました。大阪の職員は6万か7万おられるんです。ということは、3万も4万もメールが来たんでしょうね、それは。その支持のメールですね。

それと、この差し押さえについては、公平性だと、公平な税のものだという話ですね。ただ、肝心なことは、この定額給付金、普通ですと1万2,000円なんです。子供、お年寄りにする

と2万円になるんですね、1人。金額にしてはわずかなんですよ。なぜこれが問題視されるかという、いいですか、ここが肝心だと思うんですよ。その振り込むのを市のほうが銀行を口座を指定をします。そして3日前に確認をして、どれだけあるのかということで、そこに定額給付金の1万2,000円なり2万円を振り込むんです。それを引けばいいんだけど、問題は、公平性と言われるけども、例えばその口座に90万あったとする、そうすると今までの何らかの対応で滞納があったと、そうするとそれも全部引いてしまうわけですよ。そういう方が結構おられるんです。私は苦情を聞くんです。中には、自分の口座から89万円引かれてゼロになったんだと、私は定額給付金の1万2,000円はいいんだと、しかし、それだけ引くならば、事前に説明をしてくれという怒りのほうが非常に多いんです。そういう押さえ方をしておるんです。だから市民は立腹するんです。この押さえた件数は何ぼあるんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 立腹されてる市民がいっぱいいらっしゃるという話ですが、税務吏員のほうも当然そういう方たちに対して、納めていただきたいということでの働きかけはさまざまな手法で取り組んでいき、そしてそういう記録がきちんと残っておられる方に対して、そういう差し押さえに入っているというふうに私は思っております。何もなく突然、物事がそのようなことをするという事は、それはあり得ません。それまでの経過があつてそこに至つたというふうに御理解をいただきたいと思っております。

件数っておっしゃいましたでしょうか。

○議員（10番 小宮 教義君） はい。

○市長（財部 能成君） 件数は、今私のほうではちょっと持ち合わせが現時点ではありません。件数はですね。金額は押さえておりますけども。

○議員（10番 小宮 教義君） わかりました。

○議長（作元 義文君） いいですか。

○議員（10番 小宮 教義君） わかりました、件数。

○市長（財部 能成君） もう一回、済いません。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 366人ということです。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 366名ですよ。これだけの市民の方に苦しみを与えたということが、まず大きい成果だと私は理解しております。

次に、費用対効果についてお尋ねしたいと思うんですが、まず事業をするときにはどれだけの投資をすればどれだけの採算が合うのかというのが第一でございますが、この費用対効果、市長

はこの言葉をどのようにとらえておられますか。まず先にそれをお尋ねいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 費用対効果、これ約十数年前からよく行政においても使われる言葉でございます。費用対効果というもので物事を区切ってしまうことによって今私どもの対馬市が困っていることも実はございます。それは、さまざまな市民の皆さんが困って要望が上がってくる事業がございますけども、それらが費用対効果という国の制度で全く制度に乗らないというふうなことがあります。私どもは逆に、改正離島振興法の提言書の中には、国境離島における国の制度としての費用対効果のあり方を逆に考え直すべきだと、都会と同じような費用対効果ではこの離島、辺地、過疎地においては事業展開というのがやりにくいということで、必ずしも費用対効果が金科玉条のように物事を取り扱われておった十数年前と時代は変わってきてるというふうに私は費用対効果を考えております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） では、費用対効果という解釈もありでしょうが、では、我が市にちょっと置き変えてみたいと思うんですが、対馬の福岡事務所がございまして、もう既に4年目に入って半ばを過ぎてますが、この対馬の福岡事務所、これに対しての費用対効果はどうでございましょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この事業、事業と考えれば、費用対効果というのを検証するのはすごく難しゅうございます。ただし、実は先だって出張に行くとき、対馬の方と前後、座席がしてありましたけども、その方にどちらに行かれるんですかという話をしましたら、どこそこに行くという、ある意味セールスに行くというお話でした、物品を。そういう中で、新たなところに行くんですけども、それらを福岡事務所の方々が開拓をして、そして自分らにこういうところに行ってみたらどうかというお話の中で動いて、そういうところでの広がりというものをいっぱい紹介してもらってるというふうなお話を聞いたところでありますし、またこの4月1日ですか、4月から、隣の老岐市のほうも福岡に福岡事務所を開設されました。その前に私どもの事務所を白川市長も尋ねてこられたそうですけども、それを踏まえて開設されたということで、これから先、長崎県も全市町村で、東京のほうに新たに出すか出さないかとかいうふうな話も今進んでおりますけども、今地域に残っているのは、とどまっていますは新たな情報等々、それを空気を読んでいくことが難しいというふうな時代になっております。インターネットがあるからその情報わかるんではないかという部分もありますけども、やはり対面、「フェイス・ツー・フェイス」で物事を進めていくことはいっぱいございます。そういうふうな意味において、福岡事務所が地元から離れてやっている意義はあろうと思えますし効果もあろうと思えます。それをビーバイシーという考え

方で、1店幾ら出ると、仮にそう聞かれた場合は、それを明示することは大変難しい作業かなと思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 事務所については、費用対効果については、評するのが非常に難しいという話ですが、あの福岡事務所は、市長が当選をしてから、いつですか、20年の12月に開設しております。ここに、調べてみたんですが、かなりの投資をしておるんです。当初が466万、そして21年度が3,248万、22年度が3,090万、そして今年度の見込みが約3,100万、合計で何と9,904万円。約1億の投資なんです。1億円です、福岡事務所に。再度お尋ねしますが、これに対して費用対効果はどうなんですか。難しいと言われれば。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられた9,900万のお話がありました。その中には当然人件費が入っております。人件費が6割方この4年間のうちに入っておるわけですけども、人件費っていうのは、私どものこの島内にいる職員の数を減らして向こうに送っておる状態でございますので、それは差し引いて考えていただきたいというふうにも思っております。

また、残りの3千数百万円につきましては、それぞれの国の交付金等々をそこに投入をしながら一般財源を使うことを極力抑えていくやり方を模索し、組み立てておりますので、一般財源ベースで考えますとそこまでの金は使っていないというふうに私は思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） あのですね、事業というのは人件費も含めての事業費になるんです。先ほど言われるように、職員は市の職員だから派遣しておるんだから、そりゃかからないと言われるが、もし、今でもその、新人の採用をしております。それを逆に言えば、帰ってくれば、その新しく採用する人も減らせるじゃないですか。そういうこともできるんですよ。そして、評価が非常に難しいと言われるが——こっち向いてください——評価が非常に難しいと言われるが、その評価の一つの基準となるのが、この対馬の物産関係の売り上げです。特に、この対馬観光物産協会の売り上げがその指針になると思いますが。よろしいですか。平成18年が1,735万の売り上げです。そして、事務所を開設した平成20年、このときが1,192万円、で、21年度が1,074万、22年度が1,033万。これは、事務所を開く前よりもかなり落ち込んでるんです。こういう状態であれば、1億も使って事務所を運営する必要はないと思います。早急に任期中に撤回をする必要があると思いますがいかがですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小宮議員は、観光物産協会の、たしか理事をしてありますので、今おっしゃられた1,700万が1,000万に、この数年間の間に落ちてる事情というのはわかってあ

ると思いますけども、巖原町漁協のウニ関連の取り扱いをしないようになったことが大きな原因だというふうに、私は以前、担当者のほうから聞いております。その取り組みが、漁協自体がなくなったことによる、これは、ものであり、必ずしもその数字をお使いになって福岡事務所の云々には、とは違うのではないかと思います。また、福岡事務所、物販だけの話ではなくて、福岡事務所の職員がさまざまところに足を運んで、やはりお客を呼び込むこともしております。それは見えてこない部分もありますし、それはマスコミ等にも頻繁に彼らは出演をし、そして対馬への誘客のために汗を流してるということがなかなか数字に出てこない部分も御理解をいただきたいなと思います。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 福岡事務所の方も汗を流しておられるそうですが、私どもが今月、ことしですか、政務調査で福岡事務所に参りました。そして、そのときにいろいろとお話をさせていただいたんですが、そのときに長崎と、そして雲仙と佐世保でしたかね、3つがアンテナショップを出しておるんです、福岡のど真ん中に、そこに私も行きました。そして、その前にその担当者の方に、ほかの市の動きはどうかと、私たちは今から行きたいんだが事務所はどこにあるんだろうかというお尋ねをしました。そうすると、私どもは行ったことはないんだという話をしておられました。それほどまでに機能していないんじゃないかと思います。そういう大事なところは先に足を運ぶのが普通なんです。同じ長崎県の方が長崎市を含めやっておるんですから。状況はどうかということでも事務所の方たちも話をするっていうのが普通ですよ。そこまですらないということであれば、この役目をなしてないそういうこともあって廃止をしたらどうかという話をしよるんですよ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） キトラスの、博多座の前のキトラスという3市が出している部分がございます。これについては、その物件を見つけて、ある段階において、長崎市長の田上さんのほうからも話があり、一緒にあのキトラスの場所を実は、あの場所とほかの場所も私も一緒に探した経緯が実はあります。そういう中でキトラスに博多座の前に決まったところです。その最後の、場所を決める段階においても田上市長の方から相談があった、私のほうにまずありました。対馬市としてそこに入ってはどうかという話も当然あったんですけども、そういう中で物事はやっておりまして、職員がどうのこうのではなくて、職員はあれだけの大きなブースの中に、対馬の物産を物事を入れ込むというのに、まだまだそれだけのものがこの島内に育ち上がってるかということがありますし、都会の、都会っていいですか、消費者のその考え方っていうものをもっと島内にフィードバックすることが今の仕事なんではないかというふうに彼らも感じておるところであります。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 博多座の前、私も行きました。場所見に行きました。その大きいスペースじゃないんです。そして棚も結構あいてましたんで、私、写真を撮らせていただいて、私のほうでレイアウトするから対馬の物産を並べてくれるようにということで話をしてきました。そのときに事務所に行ったんです。だから、言われるように、その場所がどうこうじゃなくて、せっかく福岡事務所があるならば、基本的なお互いの情報と言われるが、お互いの情報を交換するためにも足を運ぶべきだが足も運ばないというふうな営業所であれば、事務所であれば、全く必要はないんです。土日は休みなんだから、この事務所は、福岡事務所は、基本的には。そんなら、そういう情報を共有する意思がないならやめたらいいんじゃないですか、福岡事務所は。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） あれを開設する時点において、入らないかというお話がありました。それで最終的に、佐世保、雲仙、長崎の3市で物事を組み立てるということになったわけですけども、その途中経過においてその品物というものが、こちらが恒常的に出していけるのか、それだけのスペースを受け持つという話の中で、私どもは現時点において手を挙げてないということをお理解をいただきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 私が言わんとするのは、福岡事務所の動きそのものがいかんつていうことを言っとるんですよ。まあ、これは、ちょっと時間ありませんけども……。

じゃ、次に行きますけどね。この市の財政改革の成果についてお尋ねします。

これは市長が当選をしたときに所信表明で言ってることですが、7ページなんですけどね、「私は、6町合併後10年間、優遇措置される地方交付税が減額され始める6年後の平成26年からも市民に迷惑がかからぬようにするため、今この時点からしっかりと未来をすえた財政運営を行っていく覚悟です」と厳しい財政について、の取り組みをこう言っておるわけですが。

じゃあ、これを私もそれなりに検証してみたんですが、ちょっと見えづらいでしょうけど、これは市が今年度作成した中期財政計画ですよ、お手元にあるかと思うんですが。この中で、先ほど所信表明で言った分は平成26年から30年の間なんです、赤い部分ですね。済みません、これは実質公債費の比率です。これが18を超えれば指定団体になって、かなりの厳しい条件でしかお金が借りられなくなるわけですが。この表をつくってみてるんですね。そして27年度までは市のほうで作成しておられました。その後30年で交付税措置が切れるわけですよ。それを計算を入れていくと、30年で、切れる最後の年で実質公債が単年度で18.10ぐらいになるんですよ。そして3年平均で18.04。ここで、もう既に18を超える状態になっております。そしてさらに、それがなくなった31年は単年度で18.15、そして3年平均で、これは基準

になるんですが18.10、もう既に18を超えるわけですよ。そうすると指定団体になるんですよ。借金も思うようにできなくなるんだが、このような計画がまず一つ。

それと、やっぱり何といてもこの財政を立て直すにはどうすればいいちゅうことになるんですが、まず、この歳入歳出なんです、これは19年度に作成した財政再建プログラムですよ、これを見ていただきたいんですが。この平成28年、29年に、いいですか、歳入よりも歳出が大きくなるんですよ。入ってくるお金よりも出すお金が多くなるんです。このつくっている、これではですね。少しのずれがあるかもしれないが、こういう状態になるんですよ。例えば平成28年には9億円足りんごとなるんですよ。そして平成29年、6年後には10億くらい足りなくなるんですよ。確かに今、基金がある程度あるけれども、この足りない部分は基金の繰り入れやっていくんですよ。そうすると基金が底をつくわけですよ。そういう状態になるわけです。

で、歳出を、出ていくお金をどうやって抑えるかなんです。それは同じこのプログラムなんです、まず人件費が平成28年以降、歳出の割合が高くなります。そして平成32年には、この扶助費というのはどんどんふえていきます。そうすると、32年ごろには人件費と扶助費は一緒ぐらいになるんですよ。改革をすれば、人件費のこのラインを下げる以外にないと。義務的経費、この人件費を下げる以外に方法はないんですよ。

そこで、市長が作成をしておられました人間をまず減らす計画が一つありますがこれは第1次定員適正化計画、これは前の松村市長が作成したものです。5年間の計画で17年から21年なんです、このときには823人いた職員が631人、192人も減らしております。192人ですよ。よろしいですか。そして、今回作成しておりますが、この3月に、これは財部市長の作成した分ですよ。これも5年間計画で22年から27年度5年間、これによると631人を600人にするんだと。わずか31名ですよ、減が。前の松村市長のときには192人も減しとるんですよ。それがなぜわずか31人なのか。5年間の退職者は116人もいるんですよ。ということは、新規に85人の採用をするちゅうことになるんですよ、5年間で。

人件費ほどかかるものはないんですよ。人件費は、1人約将来にわたって2億5,000から3億かかります。仮に2億だとしても85人だと170億、これが市が将来に負担する金額になるんですよ。まず、これを抑えなければならない。そのためには、この適正化計画を見直すべきじゃないか。

じゃあ、どういった点で見直すのか。よろしいですか。まず人件費のカット、これをやること。そして、市の業務を民間委託をするということです。今、窓口なんかは、できるところ、窓口でもそうですし、公民館もございしますが、図書館もございしますが、そういうところを、まず民間に委託する。そして市が持つてる施設、特老もございします。幼稚園、保育所ございします。そういうところを民間に譲渡する。そういう計画を盛り込みながら、この第2次定員適正化計画を見直さ

なければ、交付税措置が切れた31年後は大変なことになりますよ。見直す必要があると思いますが、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 600名の中には消防職員等々も入っております。島民の安心安全の環境をつくり上げていくために、今の消防職員の数を見直しをしていかなければいけないというふうに、逆にそこは思っておる部分でもあります。再配置のことも当然踏まえながら、市民が安心できる体制を整えるためには、増を考えていかざるを得んだらうと思っております。

その他、もっと行政を絞り込む行政改革をしていけばいいじゃないかというお話もございます。

逆に、市民のサービスといいますか、その地域での活性化というものも、議員の皆様も片や言っている部分もありますが、そのあたりを十分に勘案しながら適正な組織のあり方というものも考えていこうと思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 住民のサービスも大事ですけどね、じゃあ、住民のサービスというのは、市民1人に対して職員の方が何人おられるかというふうな計算になろうかと思うんですが、大体全国平均が7.4人、そして対馬市で見ると約15人、非常に高いわけですよ。こういう高い中でやっていっとるわけですから、早く、先ほど申しました民間委託なりをして、要らないものは切り捨ててやっていって、再度この適正化計画を作成しなければ、前市長のときには163名、つまり192名減員しとるんですよ。今回の計画が31名じゃあ、ぬる過ぎますと思いますよ。再度お尋ねします。削減計画はないのか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今後、26年以降の市の運営をやっていくために、今私どもは、先ほど申しましたように借金総額を減らすこと、そして基金総額を逆にふやすこと、それに腐心しております。縮減されていきます26年度から5カ年間、この5カ年間で恐らく交付税で100億近い金が減るものというふうに想定をして、今運営をしております。当然、そのようなことは、国は約束ですから断行されるはずだと思っておりますので、気を引き締めて取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 私も、ほかの壱岐とか五島もよく目を通すんですが、五島は今回約60名、この計画で削減するようにしています。やっぱり31名というのは少な過ぎますから、もっと内部を改革してですね、最低でもこの五島のように60から80。確かに消防もございいますが、消防は35名ぐらいですから、もっと改革をして、余分なものは切り捨てて、この改革、せめて60名から80名の削減をお願いして終わります。

以上。

○議長（作元 義文君） 以上で、小宮教義君の質問は終わりました。（「議長」と呼ぶ者あり）
はい。

○議員（18番 大部 初幸君） 小宮議員が冒頭に、人のことを「市長はナマズみたいだ、都合のいいときだけ顔を出して」というこの言葉は、全体的にこれマスコミもおるしテレビで放映されるわけです。これ、議長としてどういう判断をしますか、お聞きします。

○議長（作元 義文君） 悪口でもないとは思いますが、小宮議員の発言ということで、そのまましておきたいと思えます。

○議員（18番 大部 初幸君） じゃ、我々はナマズみたいな市長の下で審議していくわけね、そしたら。

○議長（作元 義文君） そうでもないでしょう。

○議員（18番 大部 初幸君） 放映をこれでしていいものかを、僕らはちょっと。問題発言と思うとですがねえ。（「進行」と呼ぶ者あり）

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。

午前11時53分休憩

.....

午前11時54分再開

○議長（作元 義文君） 再開して、そのままいきます。

暫時休憩して昼食休憩とします。開会を1時から行います。

午前11時54分休憩

.....

午後1時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） どなたも、改めましてこんにちは。新生クラブの糸瀬でございます。3・11東日本大震災、台風12号による被災者に対し、亡くなられた方々御冥福とお見舞いを申し上げたいと思えます。

それでは、通告に従いまして、有害獣駆除対策についてということで通告をしております。

市長、私が通告したのは26日ですかね。それからその後に、9月1日に「イノシシ駆除へ、実験」という新聞が出まして、よく見てみましたら上対馬町なんですね。私も、上対馬にこれだけ市長が思い入れを持っておられるかと、そんな思いがすると少しトーンが下がるような気が